

どんぐり広場における学生の保育実践と学び

吉田美奈 長櫓涼子
Yoshida Mina Nagaro Ryoko

キーワード：保育実践、乳幼児と保育専攻学生、子育て広場、体験学習

はじめに

内閣府の子ども・若者白書では、少子化や核家族化の進行、地域のつながりの希薄化など社会環境の変化の中、子育てについて相談できる相手が身近にいないなど、子育てが孤立化することにより子育ての負担感が増していることが問題視されている（内閣府HP）。

また、文部科学白書では、家庭環境の多様化や地域社会の変化により、親子の育ちを支える人間関係が弱まり、子育てについての悩みや不安を多くの家庭が抱えていると、地域社会で子育てを支えることの重要性について述べている（文部科学省HP）。

厚生労働省は子ども・子育て支援政策の一つとして、身近な場所に子育て親子が気軽に集まって相談や交流を行う地域子育て支援拠点の整備を進めている。平成26年4月に地域子育て支援拠点事業実施要綱が定められたことにより、各地域の幼稚園や保育所、公共施設、児童館等の地方子育て支援拠点において、市町村など自治体が実施主体となり地域の子育て支援機能の充実を図る取り組みが行われている。取り組むべき課題として「子育ての孤立化」「子育ての不安感、負担感」「子どもの多様な大人・子どもとの関わりの減少」をあげ、拠点設置の目的を「子育て中の親子が気軽に集い、相互交流や子育ての不安・悩みを相談できる場を提供」することと定めている（厚生労働省HP）。

本学では、「保育と子育て支援」の授業の一環として子育て広場の“どんぐり広場”（以下、「どんぐり」）を開催しており、乳幼児期の子どもと保護者への子育て支援活動を学生が主体となって計画・実践している。2016年度は5月より7月までの月に一度とし、3回で終結した。「どんぐり」は親子と本学の保育専攻学生の交流の場であり、遊び場でもある。また、来場した親子が遊びやすく過ごしやすい環境を整えることによって居場所を作り、学生と親子だけでなく、親と子、そして子育て中の親同士をつなぐことを目的の一つとしている。

「保育と子育て支援」を受講した学生は「どんぐり」の開催に向け、まず子育て広場の意義と目的についての講義を受けた後、上田市内の子育て支援センターにおいて開設されている“にじいろ広場”を見学し、環境構成や保育実践を学んだ。さらに、広場のイメージをより深めるため、本学の附属幼稚園が開催する未就園児とその保護者対象の子育て広場（たんぼぼの会）

にも参加した。

「どんぐり」の会場には大小の手作りおもちゃを用意し、授乳、絵本、休憩スペースを配置した。おもちゃや各スペースの配置は、環境構成の大切さを実感し、環境を構成する視点を養うため、活動内容に応じて学生自身が行った。また、学生が主体となり計画・運営する30分程度のイベント（以下、「企画」）も実施されたが（表1）、親子が広場で自由に過ごすことを優先し、「企画」への参加は任意とすることを共通認識とした。

表1 広場の企画

実施回	実施日	企画のテーマ
第1回	5月25日	まねっこどうぶつ ～からだを動かしてあそぼう～
第2回	6月1日	ぐるぐる・ぺたぺた・シュッシュュッ 体を使って絵を描こう!!
第3回	7月13日	夏祭りで楽しもう

1. 研究の目的

本研究では、本学で実施された学生主体の子育て広場である“どんぐり広場”での保育実践やその準備活動において、学生がどのような意識や目的を持って参加したのか、またどのような経験をしたのかを「振り返りシート」の分析によって明らかにし、課題を検討することを目的とする。

2. 方法

(1) 対象

「保育と子育て支援」を受講した幼児教育学科2年生16名を対象に、「振り返りシート」にて学習および保育実践の振り返りを行った。項目は以下の通りである（表2）。夏休み前の最後の授業を利用し、60分程度で自由に記述するよう求めた。「振り返りシート」に記載された内容は研究目的でのみ使用すること、公表に際しては個人が特定されないよう細心の注意を払うことを口頭及び文書で説明し、調査協力者の自由意思のもと、研究協力の同意書への署名を得た。

表2 本研究で用いた振り返りシートの項目

- 1) どんぐり広場の準備学習について
- 2) にじいろ広場の見学について
- 3) たんぼぼの会への参加について
- 4) どんぐり広場の運営について
- 5) 親子の関わりの中で学んだこと

(2) 分析

学生の経験や感情を把握するためのツールとして、「どんぐり」全回終了後の授業中に学生が記述した「振り返りシート」の記述を分析に用いた。教師から「各項目について、気づき、学んだこと、反省などを自由に書いてみてください。また、どんな体験をして、どう思ったか、相手がどう感じているかなども文章としてまとめてみてください。」という説明があり、学生は授業のうち60分程度を使ってA4サイズの罫線入りワークシートに記述した。

本研究では、これらの項目のうち、「どんぐり」に関わる1)、4)、5) をテキストマイニング法の一つであるトレンドサーチにより分析した。トレンドサーチは、自由記述等の文章群から品詞ごとに語句を引き出し、語句の重要度の計算や語句間の関連度や語句と文章間の関連度が計算される分析処理のソフトである。また、抽出された語句群を、関連度に応じて互いに引張り合わせることによって平面上に視覚的に配置させることもできる。これにより、語句は互いに関連の高いものは近くに、関連の低いものは遠くに配置され、直感的に情報全体の概観を把握することが可能である。重要語句のマッピングでは、分析対象の文章全体の重要語句をマッピングさせることにより、語句間の関連のイメージを把握し文章群全体が意味する概念を俯瞰することも可能である。

本研究では、トレンドサーチによる分析の前に、以下の2項目を考慮した。①各テキストでの語句の抽出数の平準化を行い、抽出数を50に調整した。②類似した語句については、事前の語句抽出の際に3人の研究者によって同義語として処理するかどうかの判定を行った。例えば「母親」、「お母さん」、「親」は、別々の語句として抽出されるため、「保護者」の同義語とみなすような方法である。これは、同じ意味でも微妙な違いがあると、異なる語句として認識され、その結果、関連度が小さくなってしまい、重要語句が抜け落ちてしまうのを避けるためである。

3. 結果と考察

(1) “どんぐり広場”に関するワードの収集

「どんぐり」に参加したことで、回答者である学生がどのような気づきや学び、反省を持ったのかを客観的に把握するため、トレンドサーチによる分析を行った。分析に用いるワードは438個収集されたが、不要語や同義語、長い文章等を除く作業を行い、抽出数を50個に調整した(表3)。それから、トレンドサーチの重要ワードのマッピング機能を用いて、イメージ語句全体の関連ワードのつながりを概観した。なお、トレンドサーチを使用する事前準備として、①母数の標準化、②同義語のグループ化、③データ母数の偏りを考慮するなど、妥当性の検討を行った。①については50のテキスト数となり、また、②については、同義語(例えば、「母親」、「お母さん」、「親」等)の整理をして1つの語句(「保護者」として認識させた。

(2) どんぐり広場の振り返りに関連するワードのつながり

分析の結果、図1のような関連ワードのつながりが得られた。頻出回数の高さは、ワードを

表3 どんぐり広場の振り返りに関するワード（重要度順）

名詞 (40)		動詞 (8)		形容詞 (2)	
1. 準備	11. 振り返り	21. 危険	31. 参加	1. 遊ぶ	1. 色々
2. 企画	12. 保育	22. 始まり	32. 雰囲気	2. 出来る	2. 強い
3. おもちゃ	13. 環境構成	23. 園	33. 配慮	3. 変わる	
4. 経験	14. 理解	24. 保護者	34. 記憶	4. 見守る	
5. 行動	15. 声掛け	25. 実習	35. 全体的	5. 甘える	
6. 想定	16. 気持ち	26. 運営	36. 関係	6. 嫌がる	
7. 親子	17. 姿	27. 積極的	37. 先生	7. 伝わる	
8. 学生	18. 興味	28. 工夫	38. 助言	8. 増える	
9. 授業	19. 必要	29. 空き時間	39. 場面		
10. 道具	20. 苦勞	30. 片づけ	40. 目的		

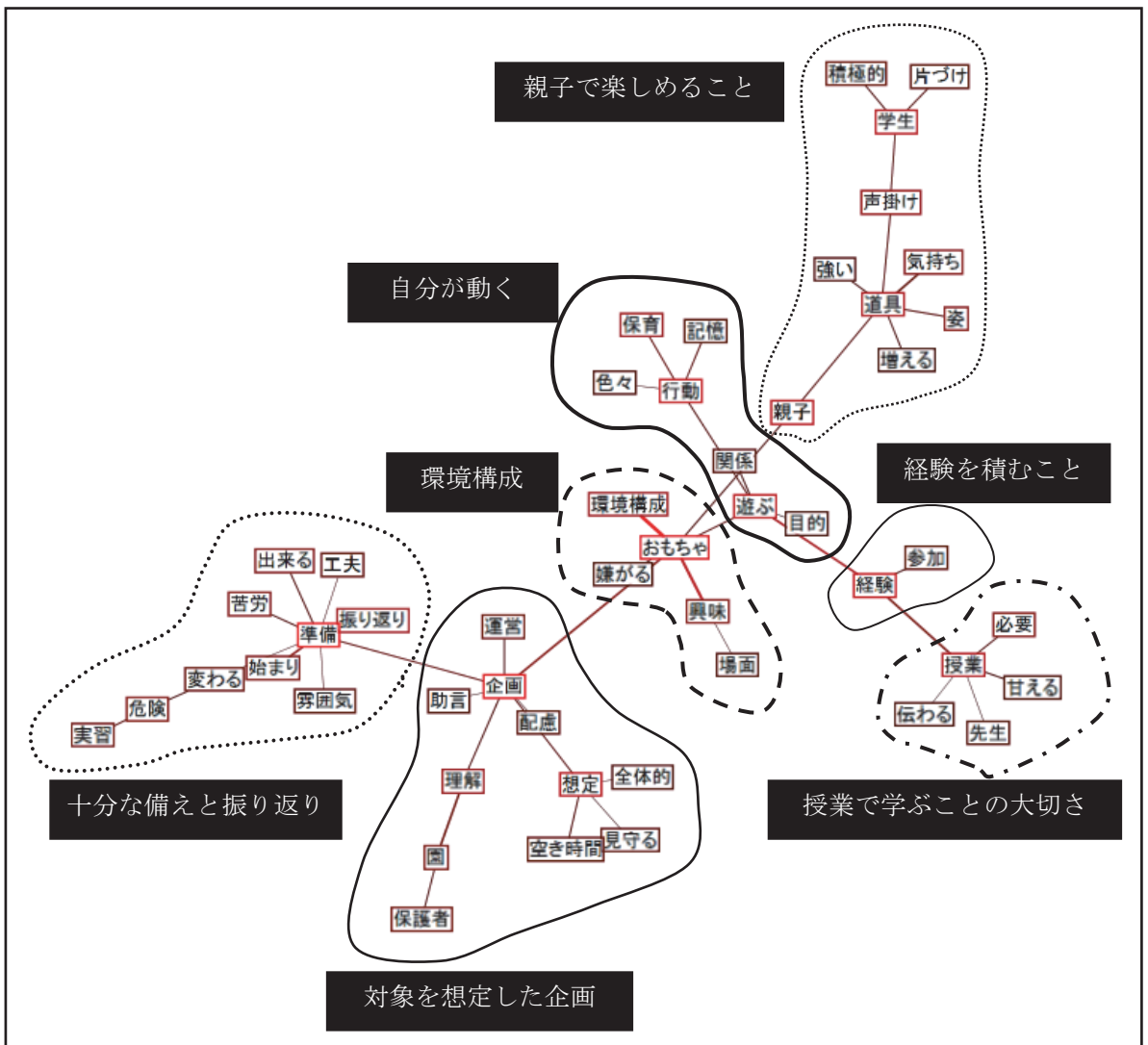


図1 “どんぐり広場”の振り返りに関連するワードのつながり

囲む枠の明暗で示されており、色が明るいものほど頻出回数が高かったワードである。

「準備」「企画」「おもちゃ」「遊ぶ」「経験」「授業」「親子」を中心として大きく7つのクラスターが形成されている。それぞれを概観してみると、まず、「準備」→「始まり」・「振り返り」といった『十分な備えと振り返り』を表すイメージ群、そして、「企画」→「理解」・「想定」といった『対象を想定した企画』を表すイメージ群、次に、「おもちゃ」→「環境構成」→「興味」といった『環境構成』を表すイメージ群が概観できる。また、「遊ぶ」→「行動」→「保育」といった『自分が動く』を表すイメージ群、さらに、「経験」→「参加」といった『経験を積むこと』を表すイメージ群が概観できる。それから、「授業」→「必要」といった『授業で学ぶことの大切さ』、最後に「親子」→「道具」→「気持ち」といった『親子で楽しめること』を表すイメージ群が概観できる。

分析結果からは、『十分な備えと振り返り』『対象を想定した企画』『環境構成』『自分が動く』『経験を積むこと』『授業で学ぶことの大切さ』『親子で楽しめること』の大きく7つがイメージとして存在していることが示唆された。授業で十分に知識を得た上で保育する対象を十分に理解・想定し、環境構成などの準備を進めること、そして本番では親子が楽しめるように配慮して自ら進んで動き、経験を積むこと、さらに終わった後は振り返りを行うこと、などが意識されているようである。

(3) “どんぐり広場”の振り返りに関連するワード同士の関係

図2は、“どんぐり広場”の振り返りに関連するワード同士の関連性を概観したものである。色が明るいものほどワード同士の関係が強いことを示す。また、関連のあるワード同士が近くに配置されている。関連の強いワードを以下にまとめた(表4)。

表4 ワードの関連性の強さ

〈関連度〉

最も強い	「おもちゃ」と「環境構成」
強い	「おもちゃ」と「興味」
やや強い	「おもちゃ」と「企画」
	「準備」と「始まり」
	「気持ち」と「道具」
	「授業」と「経験」
	「遊ぶ」と「経験」
	「園」と「理解」

最も強い関連が見られたのは、「おもちゃ」と「環境構成」である。「どんぐり」の環境構成を考えるにあたり、おもちゃの準備が最重要視されていることがうかがえる。

次に関連が強かったのは、「おもちゃ」と「興味」である。おもちゃを準備する際に、来場

する子どもがどのようなおもちゃに興味を持つのかを意識して準備している様子を読み取れる。「おもちゃ」に関連するワードとしては、「興味」の次に関連の強い「企画」、そしてやや弱い関連ながら「経験」「想定」「親子」があげられる。「どんぐり」を構成する要素として「おもちゃ」と並び、学生主導の一斉保育である「企画」の準備が意識されている。おもちゃの選定・配置を含めた環境構成は、来場する親子が一緒に楽しめるよう、子どもの年齢や発達段階を想定して行われ、それらの準備も含めて学生自身の経験値になると考えられているようである。

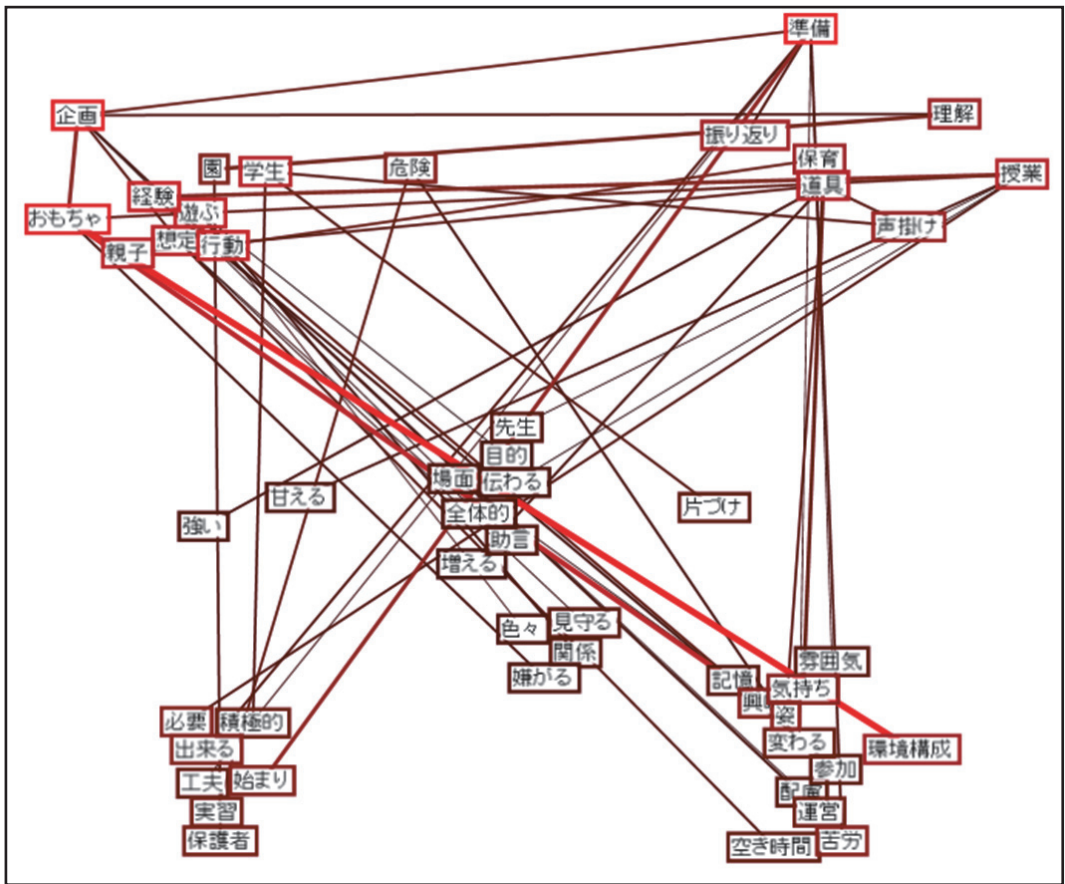


図2 どんぐり広場の振り返りに関連するワードの関係線

また、「企画」と関連するワードとしては、関係性が弱めではあるが「運営」「理解」「準備」「想定」がある。計画から実践まで自らが主で行う「企画」には、学習により保育の知識を深めること、来場する子どもたちの年齢や発達を想定して準備を進めること、そして子どもたちがより楽しく遊べるよう運営する必要があると考えていることが分かる。

「どんぐり」の「準備」と企画の「始まり」も関連付けて意識されているようである。2回目の「どんぐり」を終えた後、1回目、2回目の広場の様子を録画した映像を流し、3回目の開催に向けての振り返りを行った。その時、反省点としてあがってきたのが振り返り1・2に類似する内容の、自由遊びから「企画」への入り方、さらにそれを意識した環境構成であった。映像を

見た学生は、保育の流れを見通したうえで準備する必要があると感じたのであろう。

〈振り返り1〉

どのグループも、活動を始めるときなど切り替え時がまだ甘いと思った。環境などに配慮をしていますが、自分たちが戸惑ってしまっているように見られた。そのことから、環境への配慮は“子どもが主体”ではなくなんとなくで行われた、自己都合による動きであったと考えた。だが、活動の内容に関しては、楽しむ姿が見られたため、良かったと思う。

〈振り返り2〉

企画をするためにおもちゃを動かしてから企画を始めるまでの時間が長く、その時間もつたいないと思った。企画は参加した親子が楽しんでいる様子が見られた。全体を通して、回を重ねるごとに親子との関わり方や企画への入り方が良くなっているように感じた。

「準備」というワードについては、弱いながら「振り返り」「苦労」「出来る」との関係性も見られる。授業の合間を縫った準備活動に苦労している様子や、次の開催に向けて活動を振り返り、十分準備して活動をよりよいものにしようと考えている様子が読み取れる(振り返り3)。

〈振り返り3〉

グループごとにどのような企画が楽しめるかと話し合ってから決めてその企画のためにどのような配慮をすればよいか、用意するものなどを考えていくのが少し大変だった。最初の頃のどんぐり広場では企画のほうに学生が集まってしまうなどがあったり、企画の準備に時間がかかってしまうといったことが多かったが、みんなで反省点をどう改善していくべきか考え、次につなげていくことでスムーズに運営することができた。

「気持ち」と「道具」の関連について、3度の「どんぐり」を経験した学生は、子どもたちが遊びに使う道具にも気を配ることで、参加している親子だけでなく、学生自身の「気持ち」にも違いが見られたことを感じ取っているようである(振り返り4・5)。学生が振り返りシートに記入した「気持ち」には、嬉しい、楽しいだけでなく、保護者がくつろいでいる様子を感じ取った、リラックスする、安らぐなどの言葉も見受けられた。授業の合間を縫って行われる「企

画」の準備に苦勞した様子もうかがえるが、念入りに準備することで親子が楽しめたという手ごたえを感じており、楽しみや喜びの共有という形で保護者と関わりを持つことができたようでもある。

〈振り返り4〉

子どもがより楽しく年齢に合った活動ができるように、素材の工夫や材料、道具なども研究した。実際に絵の具を使うとなると濃さや水の入れ方によって出来上がり方も異なり、また、準備の段階でもしかしたら手を使うのが嫌で筆などを用意した方が良いのではないかという意見も出て、実際に行ったときに本当に手を使うのが嫌で途中で筆を持ってくるとそれを使い、他の子とは違う楽しみ方をしているのを見て、年齢の特徴をもっと生かせたらよいと思った。

〈振り返り5〉

朝早くから集まり当日はいろいろなことを気にかけて運営を行いました。子どもたちは自分が思っていたよりも夏祭りを楽しんでいて、準備は大変だったけれど、この活動を行ってよかったと思いました。全体の流れを見ながら活動を進めていく事は出来ないことがまだ多い1・2歳児ほどしっかりと行うことが大切だと思いました。

「道具」というワードについては、弱めではあるが「親子」「強い」「増える」「姿」「声掛け」「苦勞」との関連がみられる。ここからは、「道具」が学生と親子をつなぐきっかけになったと感じている様子、〈振り返り4〉のように準備は大変だが子どもの年齢や興味に合わせて周的な準備をした結果、回を重ねるごとに来場者が増えたという手ごたえを強く感じている様子が読み取れる。

「授業」と「経験」の関連について、「どんぐり」を開催するにあたっては、まず「授業」で広場の目的や子育て支援の現状、起こりうる危険への対処法などについて学び、その上で保育の見通しを立てる。学生は、それらすべてが保育士としての「経験」につながっていくという認識を持って臨んでいるようである（振り返り6）。

〈振り返り6〉

来てくれたお子さん、お母さんたちが楽しめるように、リラックスできる環境を考えるときに、まず、どんな環境がそもそもリラックスできるのかを学んだ。突然の怪我、体調の変化に対応するためにプリントをいただいたが、怪我をしないようにするにはどのようなことに気をつければよいのかを深く考えさせられたし、今回の準備で学んだことは今度のことにも生かせると感じた。

「経験」については、「遊ぶ」とも強めの関連が見られる。来場した親子と広場でどのように関わるのか、何をして楽しく過ごすのかなど、実践のみが「経験」につながるのではなく、授業で得た知識を実践に活かすことも「経験」であると考えているようである（振り返り7）。

〈振り返り7〉

親と子が一緒に遊んでいるところに入って行くのはとても難しいことだった。しかし、親子と一緒に遊ぶのではなく、親子で楽しく遊べる遊びを提案したり、子どもだけで遊んでいる様子を「カワイイですね」など話しかけ、親から子どもの様子を聞いたりなど、子育て支援では、特に”親”への支援を重要視することが必要だと学ぶことができた。

「園」と「理解」の関連について、「どんぐり」における保育の姿勢として、学生が用意する「企画」への参加に強制感を持たせるのではなく、あくまでも来場した親子が自由に過ごすことを優先した。また、学生自身にもにじいろ広場の見学やたんぼぼの会への参加を通じて、「どんぐり」のあり方を保育所や幼稚園とは別物として捉える様子が見られた（振り返り8・9）。ここからは、実習などを通じて得た「保育所像」「幼稚園像」と比較した上で作った“どんぐり広場像”を具現化しようとする姿勢を読み取ることができた。

〈振り返り8〉

初めは、親がいて子どもとすごく関わりにくいと感じたり、親がいる前で子どもとの接し方など戸惑うことが多かったのですが、何度か行うことによって保育園とは違った子どもとの関わり方やそれだけではなく保護者との関わり方も少しずつできるようになりました。

〈振り返り9〉

どんぐり広場を行うときに、幼稚園や保育園とは違う自由さがあることを知ることが準備学習だと思った。やってもやらなくてもいいという強制感のない雰囲気づくりのために、子どもが今、興味を持っていることを一番に考えるという考え方は今まで知らなかったもので、とても良い学びになった。

4. まとめ

本研究では、学生主体で計画・運営する子育て広場である「どんぐり」での保育実践やその準備活動において、どのような意識や目的を持って参加しているのか、またどのような経験を

したのかを「振り返りシート」の分析により読み取ろうとした。

分析の結果、学生は保育する対象を十分に理解・想定した上で環境構成し、企画の準備を進めていくことを最も大切だと考えており、そのなかでもおもちゃの選定・配置を最重要視していることが示唆された。汐見・村上・松永・保坂・志村（2012）は、0歳児高月齢クラスの子どもの自由遊びを観察した研究で、空間構成が子どもの行動だけでなく、保育者の意識にも大きく関わるということが明らかになったと報告している。学生は、学外実習や学内の授業などさまざまな場面において環境構成を学び、実践してきたのであるが、「どんぐり」の経験も、環境構成に対する意識を高めたのであろう。

「どんぐり」の開催にあたっては、最初に広場の目的や子育て支援の現状などの知識を授業で得ておくことが大切だと考える様子が認められた。市の子育て支援センターの見学や附属幼稚園主催のイベントへの参加も生きた経験となったようである。そこから得た知識や経験をもとに形作られた「どんぐり広場像」に従って行動している学生の存在も示された。「どんぐり」当日は、親子一緒に楽しめるよう配慮しながら意識的に行動することが保育士としての経験を積むことにもなるという認識のもと参加していたようである。そして終了後は次回に活かすべく自らの保育実践を振り返ることの大切さを認識している。広場の様子を録画した映像には、母親が子どもを学生に任せて休憩スペースでくつろぐ様子や、保護者同士で楽し気に会話する様子も見られた。竹石（2008）は、「母子が密室状態のなかで互いが向き合うなかでの子育てをしている状況にあっては、「ちょっと誰かがみってくれる」ことで母子の距離がほどよい距離となる」と述べている。映像からは、「どんぐり」が保護者にとって一息つける場所でもあり、保護者同士で交流できる場所でもあったことがうかがえた。「どんぐり」は、学生の実践学びの場となっただけでなく、当初の目的でもあった「親と子をつなぐ」役割もある程度果たせたのではないだろうか。

5. 今後の課題

本研究では、準備学習の重要性が示されるとともに、「企画」の準備活動のあり方が課題として示された。また、学生と保護者との交流がやや少なかったことから、学生と保護者の双方にとってより効果が期待できる場としていくための広場のあり方を検討していく必要がある。

さらに、保護者からアンケート等により感想をいただき、その結果を適切に還元することで、「どんぐり」の充実を図るとともに、学生自らによる評価・反省が適切なものであるのかを考えるための手がかりとしたい。

引用文献

厚生労働省 子ども・子育て支援—地域子育て支援拠点事業について〔検索日 2016年9月6日〕,

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/kosodate/index.html

文部科学省 平成27年度文部科学白書〔検索日 2016年9月6日〕

http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab201601/1375335.htm

内閣府 平成26年版 子ども・若者白書〔検索日 2016年9月6日〕

http://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/h26honpen/pdf_index.html

汐見 稔幸・村上 博文・松永 静子・保坂 佳一・志村 洋子 (2012) 乳児保育室の空間構成と“子どもの行為及び保育者の意識”の変容、保育学研究50(3), 64-74

竹石 聖子 (2008) 子育て家族の現状と支援における課題:「子育て広場」の取り組みから、常葉学園短期大学紀要 (39), 59-66